

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	宅幼老所整備事業	会計	一般会計	事業No.	210	施策順No.	35-021
		事業種別	政策・その他	予算科目	3-1-4-10-5		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり			課等名	介護高齢課		
施策	35 高齢者福祉の推進			事業期間	開始	14	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	65歳以上の高齢者						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
	意図	住み慣れた身近な地域において、家庭的な雰囲気の中で介護や生きがいのサービスを受けることができる。							
	対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績		23年度目標
		65歳以上の高齢者数		29020	29440	29667	29523		
		宅幼老所か所数	9	10	10	11	10	11	B
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		宅幼老所の事業内容にも対応した通所介護施設が増えてきたため、今後の整備数等も再度検討する必要がある。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	NPO法人が設置する宅幼老所と呼ばれる小規模ケア施設(通所介護、生きがいデイ)を開設するにあたり、民家等の改修に対し対象経費の4分の3以内、750万円を限度に補助金を交付する。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	宅幼老所未設置の地区に設置する場合を対象とする。介護保険事業を行う場合は、計画等との調整を行う。障害者施設と併設する宅老所の計画案があり、補助対象に該当するか検討を行う。	1 補助施設数	
23年度実施計画	宅幼老所未設置の地区に設置する場合を対象とする。	1 補助施設数	

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項	(県)宅幼老所等開設支援事業補助金(1/2)
		県支出金			3,750		
		起債					
		その他					
		一般財源	6,684	0	3,750		
		計(A)	6,684	0	7,500		
		正規職員所要時間					
		臨時職員等所要時間					
		人件費計(B)		0			
		トータルコスト A+B		0			

4 事業に対する市民や議会の意見

計画策定懇話会等で市民からの要望が強い。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	住み慣れた身近な地域で安心して暮らしてもらう。	施策の成果指標又はムトス指標	要介護・要支援認定者の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのよう に貢献しましたか	4年間の振り返り	NPO法人を対象として、県の地域福祉総合助成金事業を活用し宅老所整備を行ってきた。		
	後期に向けた課題	人口規模の少ない中山間地については、NPOによる施設整備が望めず、未だに通所介護施設がない地区が点在している。その為、未設置地区である上久堅・三穂(伊豆木・立石)・山本・東野を対象として、宅老所開設についてNPO法人に検討を依頼。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	事業者に対する説明会を開催し、施設整備に対する補助制度等の説明を行ってきた。近年は、宅幼老所の設置とともに通所介護施設の整備が進んでおり、住み慣れた身近な地域で安心して暮らしてもらう環境が整いつつある。		
	後期に向けた課題			
コストを削減するためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	県の補助制度を活用した整備を実施してきた。		
	後期に向けた課題			
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り			
	後期に向けた課題			
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけを してきましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	①NPO法人による施設整備 ②行政は、宅老所を開設するNPO法人等に補助金を支出し支援を行い、通所介護施設未設置地区の解消に努める。		
	後期に向けた課題			
全体を通じて	4年間の振り返り	人口規模の少ない中山間地への施設整備が望めず、未だに通所介護施設がない地区もあるが、近隣地域の通所介護施設の利用でカバーしている。宅老所以外の通所介護施設は整備が進み、ほぼ市域全体をカバーできている。		
	後期に向けた課題	通所介護施設未設置地区の解消		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要があるかどうか	ない	対象や意図を修正する必要があるかどうか	ない	成果指標や指標値を修正する必要があるかどうか	ある
-----------------------	----	---------------------	----	------------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------